

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成20年10月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社 ライフ케어아이		
事業所名	グループホーム らいふ敬愛		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条5丁目4-8 (電話) 011-855-0355		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より (20年10月1日事業所記入)】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤12人 非常勤 2人 常勤換算13.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 20,000円	
				暖房費 10,000円
敷金	有( )円・ <b>無</b>		(11月~3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<b>有</b> (124,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <b>無</b>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	14 名	男性	5 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	まこまない共生クリニック 島崎外科胃腸科医院 ラビット歯科
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームらいふ敬愛は、その名の通り、法人代表者の以前からの思いである「老後の生活を敬って愛する」を念頭に造られたホームである。ホーム内は暮らしやすい工夫が随所にみられ、また、利用者を見守りやすい設計となっている。以前は職員の離職が多かったが、現在は、法人代表者の理念の下、管理者や職員がその実践に取り組んでいる。ホームでは、利用者や家族とのコミュニケーションを重視しており、家族の方々の来訪は頻繁にある。利用者は歌を歌ったり、音読をしたりなど、声を出すことを楽しんで暮らしており、レクリエーション活動や外出支援が活発に行なわれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	離職を最小限に抑える取り組み、介護計画の期間内での見直し、避難訓練の実施と地域との協力体制の整備などが改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の目的や意義を職員に話し、職員は各自で評価項目の点検に取り組んでいる。管理者が職員各自の自己評価表を纏め上げ、作成している。ミーティングで改善項目を話し合い、サービスの向上に活かされるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は18年9月から開催し、今年度は2ヵ月毎に開催している。ホームの理念や利用者の生活状況、行事などの取り組みを報告し、ホームとして、地域の方々の暮らしのお役に立てることはないかなどの意見をいただいている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の家族の来訪が頻繁にあり、利用者の暮らしぶりや健康状態、介護計画の説明をきめ細かく行なっている。話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見や要望を伺っている。運営推進会議に家族の方にも参加していただいたり、第三者の相談窓口も設けている。家族との面談記録や利用者の生活状況の要約を、職員間で共有してサービスの向上に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所付き合いは、お茶や食事を一緒にしたり、花壇の整備などをして、日常的に交流を重ねている。町内会に加入し、ホームの夏祭りや敬老会に、地域の方々やボランティアの方々に参加していただいている。運営推進会議で、地域の高齢独居の方々とお茶会などを計画している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表者は、ホーム開設にあたり、「老後の生活を敬って愛する」を念頭にホーム造りを目指し、4項目のホーム理念を掲げ、その中に「地域との交流を図り、地域に存在するホーム造りを目指す」が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は、職員ネームプレートの裏面に記載されており、ホーム各階の居間や廊下、事務所に掲げ、常に意識できるようにしている。ミーティングでは、理念を確認し合い、実践に向けての話し合いが行なわれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所付き合いは、花壇作りやお茶や食事を一緒にして、日常的に交流を重ねている。町内会に加入し、ホームの夏祭りや敬老会に地域の方々やボランティアの方々に参加していた。運営推進会議で、地域の高齢独居の方々とお茶会などを計画している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の目的や意義を職員に話し、職員は各自で評価項目の点検に取り組んでいる。管理者が職員各自の自己評価表を纏め上げ、ミーティングで改善項目を話し合い、サービス向上に活かされるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は18年9月から開催し、今年度は2ヵ月毎に開催している。ホームの理念や利用者の生活状況、行事などの取り組みを報告し、ホームとして、地域の方々の暮らしのお役に立てることはないかなどの意見をいただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、ホーム運営や利用者に関する課題、職員の離職などについて、市の担当者と積極的に相談や協議をしながら、課題解決に取り組んでいる。ふくしのまち推進センターの担当者からは、研修などの情報を得て活用している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員が交代で、写真満載のホーム便りを毎月作成し、金銭出納明細とともに家族の方々にお渡している。家族の来訪が頻繁にあり、利用者の暮らしぶりや健康状態、ケアプランなどをきめ細かくお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の方にも参加していただいたり、来訪時にも意見や要望を伺い、話やすい雰囲気作りを心がけている。家族との面談記録や利用者の生活状況を月毎に整理し、職員間で共有し、サービスの向上に活かしている。第三者の相談窓口も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の離職が多かったが、業務改善や働きやすい職場環境作りに取り組みられ、現在は、離職者も減り、利用者や職員とは馴染みの関係が築かれている。離職が発生した場合は、ホームでは利用者への影響を防ぐ配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	区の管理者会議、グループホーム協議会、在宅ケア連絡会の様々な外部研修に職員全員が参加機会を確保できるよう配慮されている。毎月のミーティング時には、言葉かけや認知症ケア、介護手順などをテーマとして勉強会を行ない、毎日の介護に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者の人的ネットワークを活かし、区内のグループホームと交流を図り、管理者同志の相互訪問や情報交換を行なっている。しかし職員同志での交流までには至っていない。	○	職員同志での相互訪問や相互の研修、症例報告などの学習会や交流の機会を設けて、サービスの質の向上や職員育成への取り組みを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームには必ず利用者と家族に見学に来ていただき、ホームでの生活を説明して、利用者や職員と一緒にレクレーションやお茶などとともにしながら、雰囲気を感じてもらおうよう配慮している。今後、自宅訪問の実施に取り組む予定である。	○	居宅から入所するケースがほとんどなので、自宅訪問の実施に取り組み、今までの暮らしぶりを情報収集して、ホームでの生活に反映させ、サービスの向上に取り組まれるよう期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とのコミュニケーションを積み重ね、利用者の持っている力を引き出し、出来ること出来ないことを見極め、また、様々なことを利用者から学ばせていただき、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのコミュニケーションの積み重ねを大切にしており、意向を聞くような場面では二者択一で伺い、具体的なイメージをもって選択できるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員1名に利用者1～2名の担当制でアセスメントと暫定計画を立案している。ミーティングで、その暫定計画をもとに、利用者や家族の意向を盛り込んだ具体的なサービスの話し合いを重ね、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで利用者全員の状況を把握し、介護計画に差異が生じていないか確認している。見直し期間には、利用者の担当職員が中心となり、モニタリングを行ない、利用者や家族の意向を考慮し、介護計画に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望により、買物や馴染みの場所への外出支援をしている。自宅で利用者本人と過ごしたいとの家族の方々の希望で、帰宅支援をして、家族の方々に喜ばれている。かかりつけ医への通院支援を柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、24時間往診対応の協力医療機関で日常の健康管理の支援を受けている。歯科受診も適時、訪問診療を受けている。利用者の希望により、以前からのかかりつけ医や他科受診も家族の方々と協力し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合にホームで出来ること出来ないこと、終末期の対応は、実施していないことなどを利用者や家族に説明しているが、ホームでの重度化に伴う指針を文書化して、利用者や家族との同意を得てはいない。	○	介護度や認知度の軽い利用者の場合であっても、重度化に伴うホームとしての方針を文書化して、入居時に同意書を交わすなどの取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は利用者の尊厳やプライバシーを大切に考えており、言葉かけや介助時の利用者のプライバシー確保の勉強会を実施し、職員に対応の徹底を図っている。利用者の記録などは慎重に取り扱っているが、面会簿が一覧表で記載するようになっている。	○	面会簿の一覧表の記載方法を一枚ずつのカード式などにして、家族の方々のプライバシーの配慮を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の生活のリズムを大切にして、時間に束縛されない支援を心がけている。散歩や体操、レクリエーションなどは居間にみんなが集まり、利用者の雰囲気を感じて行なうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対する興味や関心を持っていただけるよう、調理の下ごしらえや、お米とぎ、盛り付け、配膳や後片付けなどの一連の作業を、利用者の好みや力を活かしながら、職員が一緒に行なって支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回の設定をして、利用者の希望や状態に合わせて見守りや介助の入浴支援をしている。希望があれば、ほかの日も入浴可能で、レクリエーションを兼ねて近所の銭湯に出掛けることもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を把握して、食事のメニュー書きや食事の挨拶、布巾縫いなどの役割を受け持ってもらっている。レクリエーションが活発に行なわれ、調査時も楽しそうな歓声が沸き起こっていた。ほかにも歌ったり音読をしたり計算やパズルなどを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、外食など、ホームの周辺を車椅子の利用者も一緒に、積極的に出掛けるよう支援している。毎月の外出行事やドライブなどはホームの車を利用し、みんなで出掛けて楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階は徘徊する利用者の家族の希望により、施錠している。しかし利用者の行きたい場所へは制限することなく、職員が見守りしている。2階は開錠し、センサーを設置して利用者の様子を把握し、さりげない支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年10月に消防署指導による避難訓練を実施している。近所の方々も参加していただき、利用者全員が駐車場に避難し、体験できている。次回は来年春に予定しており、運営推進会議で地域の方々との協力もお願いしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が保健センターのアドバイスを受けて、栄養バランスを考え1200～1500カロリーの献立を作成している。利用者の食事量や水分摂取量はチェックしており、摂取量の少ない利用者には、形態を工夫して必要量を確保できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く清潔でゆったりしている。青空や夜空の見える中庭（テラス）を中心に回廊式の廊下があり、休憩出来るベンチが数箇所備え付けられている。台所は車椅子でも利用出来るようスペースを広くしており、各階にトイレを4箇所ずつ設置している。窓には紅葉を飾り、季節感を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、広く、床暖房になっており、ドアの取っ手が開け閉め、しやすく工夫されている。ベットを利用されている利用者が多いが、状態に合わせて、布団を使用している利用者もいる。馴染みの物を持ち寄り、過ごしやすい空間となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。